

## こども食堂の運営者に関する研究

1230411 今井千愛

指導教員名 中川義典

### 研究背景

2017年ごろ、近所に住むこども食堂代表 神崎さんに、「こども食堂を広めるためにご自身が運営しているこども食堂に招待していただいたこと」をきっかけにこども食堂の存在意義を考えたこと。また、こども食堂の運営者はこども食堂を運営するにあたり、何がモチベーションになっているのか疑問を持った。

### 研究目的

インタビュー調査を通じて、先行研究で足りなかったプロセスを運営者のライフストーリーをもとに明らかにすることを通じて、次のリサーチクエスションに答えることを目的とする。リサーチクエスション「こども食堂を実施する人たちはその活動が社会に必要とされていることをどのように実感するのか」

### 調査・分析方法

高知県内にある「うしおえこども食堂 代表 神崎さん」にインタビュー調査を実施。主な内容は、地域の活動の中で発見・これまで人生を振り返るきっかけ・先駆者との出会い・こども食堂実施の壁・こども食堂開始・こども食堂をする中での再発見・コロナ禍でのこども食堂。神崎さんのこれまでのライフストーリーについてインタビューを実施し分析していくこととする。

また、先行研究の図1（本文中に掲載）に着目し、継続的な運営に必要なプロセスに足りない課題を明らかにする。

### 分析結果

インタビューによって得られた神崎さんのライフストーリーを分析する中で、様々なクエスションが生まれた。そのクエスションを解決していくことで、「こども食堂の活動が社会に必要とされていることをどのように実感するのか」が明らかになった。

### 考察・結論

神崎さんは、10年前にこども食堂を始めたいと思うきっかけとなった子どもと似た境遇の子どもが、「こども食堂帰りに公園で似た境遇の子を見つけ友達になり、その子をこども食堂に連れてきた」という10年前と同じ状況を繰り返し見たことで、こども食堂が社会に必要とされていることを実感した。

また、インタビューを通して既存研究に足りない課題を発見した。これらを踏まえて、「こども食堂が社会に必要とされていることを実感したこと」が、継続的な運営に繋がると考えられる。